

第98回全国高等学校野球選手権京都大会 特別規則

1. 本大会においては、2016年度公認野球規則を適用するほか、本特別規則を適用する。
2. 審判は、4審制とする。
ただし、降雨、曇天などにより、必要が生じた場合には、外審を配置することがある。
3. 本大会に出場するチーム、責任教師(日本高野連発第6368号とする)、監督ならびに選手は、「平成28年度大会参加者資格規定」に適合し、本連盟(京都府高等学校野球連盟)に登録され、かつ「京都大会選手資格証明書」(京都大会申込書)に記載されていなければならない。なお、選手については「保護者同意書」が、自校の学校長宛てに提出されていなければならない。
4. オーダー用紙の取り扱いについて(平成11. 12月 日本高野連発第6886号)
オーダー用紙の誤記に関する事例の取り扱いを次の通り確認し、高校野球特別規則に加えることとした。
(注)登録選手とは、当該大会に選手登録された選手をいう。
 オーダー用紙とは、当日ベンチ入りする選手すべてを記載したもの。
 ケース1；試合前のオーダー用紙交換時点で大会本部の登録原簿照合により誤記に気付いた場合。
 (処置) 出場選手、控え選手を問わず、氏名、背番号の誤記を発見した場合、注意を与えて書き改めさせ、罰則は適用しない。登録原簿以外の選手が記載されていても同様の取り扱いとする。
 ケース2；オーダー用紙交換終了後、試合開始までに誤記が判明した場合。
 (処置) 誤記に関する訂正は認めらない。登録原簿通り記載された選手しか出場資格はないが、チーム自体の没収試合とはしない。
 ケース3；試合中に誤記が判明した場合。
 (処置1)登録選手間の背番号の付け間違いは、判明した時点で正しく改めさせ、罰則は適用しない。
 (処置2)登録外選手が判明したときは、実際に試合に出場する前であれば、その選手の出場を差し止め、チーム自体の没収試合とはしない。(代打などの通告を本部で原簿照合して判明したときなど)
 (処置3)登録外選手が試合に出場、これがプレイ後判明したときは、大会規定により試合中であれば没収試合とし、試合後であればそのチームの勝利を取り消し、相手チームに勝利を与える。
5. 責任教師は、必ず自校チームの試合に付き添い、選手、部員、および生徒応援団についての全責任を負わなければならない。

責任教師の付き添っていないチームは、試合をすることを認めず、没収試合として、相手校の勝利とする。なお、生徒応援団についても、責任教師の責任とするが、自校チームの試合中は、責任教師に代わる引率教員が生徒応援団の指導、監督にあたるようにしなければならない。

6. 「京都大会選手資格証明書」に記載されている、責任教師、または監督を変更することは、原則として認められないが、やむを得ない事情が生じて変更しなければならなくなった場合は、当該校の学校長から、変更理由を明記した「責任教師(または監督)変更届」を、当該試合のオーグー用紙提出時まで、大会本部へ提出し、承認を得なければならない。
ただし、新しく責任教師または監督になるものは、本特別規則第3項に定める資格を有していなければならない。
7. 「京都大会選手資格証明書」に記載されている選手を変更する場合は、開会式開始前までとする。それ以降に変更することは認められない。
ただし、特別の事情が生じた場合、大会本部で決定する。
8. 前項の規定により、選手を変更するときは、所定の「選手登録変更届」に記入したものを提出し、大会本部の承認を得なければならない。
この場合、変更して新しく登録する選手の背番号は、登録を抹消した選手の背番号とする。
したがって、すでに登録してある選手の背番号を、入れ替えることは出来ない。
ただし、変更して新しく登録する選手は、本特別規則第3項に定める資格を有していなければならない。
9. 「京都大会選手資格証明書」の提出時、記載されている選手が20名未満であったのが、その後に選手を追加して登録する場合は、本特別規則第7項に定める期限と同様の期限までとし、所定の「選手登録追加届」に記入したものを提出し、大会本部の承認をえなければならない。
この場合、追加して新しく登録する選手の背番号は「京都大会選手資格証明書」に記載されている続きの背番号とする。
ただし、追加して新しく登録する選手は、本特別規則第3項に定める資格を有していなければならない。
10. 選手または監督、責任教師が、審判の判定に従わず、そのために試合の進行が妨げられ、試合の続行が不可能となった場合は、その試合を停止し、没収試合として相手校の勝利とする。
11. 応援者は、試合に干渉することはできない。
もし、応援者が騒ぐなどして、試合の進行が妨げられ、そのために試合の続行

が不可能になった場合は、その試合を停止し、没収試合として相手校の勝利とする。

12. 降雨、日没などによるコールドゲームの規定の適用は、7回終了、もしくは7回表終了(後攻チームがリードしている場合)とする。

もし、両チームが同点のまま7回を終了し、降雨、日没などにより、試合続行が不可能となった場合は、引き分けとし、再試合を行う。

ただし、決勝戦は、本項によるコールドゲームの規定を適用せず、9回(もしくは9回表)を終了しなかった場合は、試合が成立しなかったものとして、再試合を行う。

13. 降雨、日没などのため、試合続行が不可能となり、試合が成立しなかった場合は、再試合とする。

ただし、再試合を行う場合の日程は、大会本部で決定する。

14. 太陽が丘球場・あやべ球場で、最終試合の試合開始時刻が、日没2時間前以内になった場合、または日没までに2時間以上の余裕があっても、降雨、曇天などにより、試合を開始しても、終了することが不可能となるおそれのある場合は、試合を開始せず、延期することがある。

この場合の日程の変更は、大会本部で決定する。

15. 本大会において、サスペンデットゲーム(一時停止試合)の規定は適用しない。

16. 得点差によるコールドゲームの規定は、5回以降10点差、7回以降7点差とし、準決勝戦まで適用する。

17. 試合が9回を終了して同点のときは、延長戦を行うが、延長戦は15回までとし、15回を終了して勝敗が決まらないときは、引き分けとし、再試合を行う。

ただし、再試合を行うときの日程は、大会本部で決定する。

18. 試合中に疾病、負傷など健康上の理由で、主催者がその選手の出場を不適当と認めた場合、出場を禁止する。そのような選手が多く出てチームの構成がでない場合は、相手チームの勝利とする。

19. 各校の責任教師は、本大会の大会委員として、開会式に参加し、所定の場所に整列すること。

このときの服装は、自校の試合のときに、ダッグアウトに入る場合の服装と同様とする。

20. 本大会に出場する選手は、大会本部で準備した背番号(1～20)を付けること。背番号を付けていない選手は、出場することはできない。なお、選手は20名未満の場合でも、1番からの続き番号を付け、空き番号のないようにすること。
21. ダッグアウトに入る事のできる者の資格及び人数は、次の通りである。
- (1) 責任教師～1名
 - (2) 監督～1名
 - (3) 記録員～1名
 - (4) 選手～20名以内 計23名以内
- ただし、責任教師と監督を兼務の場合は、22名以内とする。
22. ダッグアウトに入る者の服装は次の通りとする。
- (1) 責任教師は平服又はえりつきの白いシャツとする。
(運動靴でもよいが、白、または黒とする。)
 - (2) 監督は、必ず選手と同一のユニフォーム(背番号なし)を着用し、スパイクシューズを履くこと。
 - (3) 男子記録員は、自校の夏用の制服を着用すること。
夏用の制服のない学校は、白色カッターシャツ、黒色または紺色のズボンを着用するなど、高校生にふさわしい服装をすること。
 - (4) 女子記録員は、制服もしくは運動服を着用すること。
 - (5) 選手の背番号は、きちんと縫い付け、試合中にはがれないようにしておくこと。選手の着用する野球帽、ユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキングの色彩は、全員同一でなければならない。
野球帽のツバを曲げたり、ユニフォームの上着の第一ボタンをはずしたり、ストッキングを見えなくするような高校野球にふさわしくないと思われる着用は一切認めない。アンダーシャツの袖の長さは、各人によって異なってもよいが、各自の両袖の長さは、ほぼ同一にしなければならない。グラウンドに出入りする際のトレーニングシューズは、白又は黒とする。
23. 試合前のシートノックのときのノッカーは、監督以外に1名のみ認める。ノッカーは必ず選手と同一のユニフォーム(背番号なし)を着用し、スパイクシューズを履くこと。ユニフォームを着用していないノッカーは、責任教師であっても認めない。
24. 監督およびノッカーは、手袋をはめてノックすることができる。
25. 試合開始までの注意
- (1) 組み合わせの若い番号のチームが、一塁側ダッグアウトとする。
 - (2) 第1試合に出場するチームは、試合開始予定時刻の1時間30分前までに、第2試合以降の試合に出場するチームは、前の試合の試合開始までに来場

し、責任教師は、必ず大会本部に到着したことを連絡すると同時に、オーダー用紙を提出すること。なお、第2試合以降の試合に出場するチームは、前の試合が早く終了した場合には、試合開始時刻を予定より早めることがあるので、予め余裕をもって来場すること。(目に見える所のテーピング、足首のサポーターをしている選手については、オーダー用紙の備考欄に予め記入して提出のこと。)

- (3) 第一試合のチームが球場施設内(スタンドも含む)に入場できるのは、試合開始予定時刻の1時間30分前とする。
- (4) 試合の先攻、後攻の決定は、本部委員および審判委員の立ち会いのもとに決める。第1試合については、試合開始予定時刻の60分前に、第2試合以降の試合については、前の試合の4回が終了したときに行うので、両チームの責任教師および主将は、大会本部に集合すること。その時に、目に見える所のテーピング、足首のサポーター使用の選手も集合すること。並行して用具点検を実施する。(用具点検時に、審判委員から手首保護具、マウスピース、サングラスの現物の確認を得ること。)用具点検は早める場合もあるので、できるだけ速やかに所定の場所に準備すること。
- (5) 先攻、後攻を決めるときまでに、オーダー用紙(所定の枚数)を必ず提出すること。監督の到着が遅れるなどして、オーダー用紙の提出が遅れることのないようにすること。規定の時刻までに、両チームの責任教師、主将および、オーダー用紙が揃わない場合は、先攻、後攻を決めるのが遅れ、相手チームに迷惑をかけることになるので、充分留意しておくこと。
- (6) 試合前シートロックは、1チーム7分以内とし、後攻チームより行う。ただし、試合開始時刻が予定より遅れたり、グラウンドの状態が不良な場合など、大会運営の都合上、ロックの時間を短縮、または取り止めることがある。ロックの時間は、ボール回しを始めたときに、サイレンを鳴らして計時をはじめ、終了2分前に放送で知らせる。
- (7) 試合前のグラウンド内でのウォーミングアップおよびロックの時には、背番号を付けた選手以外は、グラウンド内に入ることはできない。ただし、背番号を付けていない部員(3名)が、ロック補助員としてロックを手伝ってもよい。その時には、アップシューズで、必ずヘルメット着用すること。(ブルペン捕手は出来ない)なお、背番号を付けている選手であっても、ボールケースを持つなど補助的立場にある者はヘルメットを着用すること。特に、女子記録員が、グラウンド内に入ったり、ロックを手伝うことは危険防止のため厳禁する。ただし、決勝戦の前に認められている、バッティング練習のときに限り、背番号を付けていなくても、ユニフォームを着用した部員(20名以内)が、グラウンド内に入って、バッティング練習を手伝うことは認められる。
- (8) グラウンド整備は、両チームが協力して行うこと。(ロック終了後、5回終了後)各球場によって人数は異なるが、必ずユニフォーム(練習用でもよい)

を着用すること。最終試合のチームは、試合終了後も、グラウンド整備を手伝い、ダッグアウト内の清掃をすること。

- (9) ボールボーイは、両チームから、選手と同一ユニフォーム(背番号なしもしくは練習用ユニフォーム)、ヘルメット(場内要員)を着用した部員を、各々5名ずつ出し、所定の位置(球場内3名・スタンド2名)に待機させておくこと。背番号を付けた選手がボールボーイを兼務することは認めない。場内のボールボーイは主審へのボール渡し、場内のファウルボールの回収が主任務であるので、バットやヘルメットの回収は、ダッグアウト内の選手がすること。また、場内のボールボーイは、自校チームの選手に声を出して応援したり、相手チームを野次ったりしないこと。スタンドのボールボーイは、ファウルボールの飛来を知らせ、スタンドに入ったボール、場外に出たボールを回収し、場内のボールボーイに渡すこと。なお、ボールボーイのユニフォームも、商標、マークなどを必ずはずしておくこと。ボールボーイの履くトレーニングシューズは、白又は黒とする。
- (10) ベースコーチ及びバットボーイは危険防止のため、必ずSGマーク付(製品安全協会認可)両耳つきヘルメットを着用すること。
- (11) スタンドおよび場外へ出たファウルボーイは、両チームが分担して回収すること。

26. 試合終了後の注意事項

- (1) 各球場とも、勝利校の校歌を演奏し、校旗を掲揚する。
*勝利校は、ホームプレートの後方に一列横隊に整列すること。
*敗退校は、自チームのダッグアウト前に一列横隊に整列すること。
*勝利校・敗退校とも脱帽し、校歌の演奏が終わったあと、一礼すること。
- (2) 試合終了後は、次の試合のチームのため、速やかにダッグアウトをあげ渡すこと。
- (3) ダッグアウトをあげ渡すときには、忘れ物がないかを確認し、ゴミ等を処理しておくこと。

27. 降雨などにより、試合実施が危ぶまれるときの可否は、大会本部で決定する。

28. 降雨などにより試合中止になった場合の日程の変更は、大会本部で決定する。

29. 本大会に出場するチームは、本大会が開幕した時点から終了するまで本大会に関係のない対外試合をしてはならない。

《第98回全国高等学校野球選手権地方大会規定：注意事項の(六)》

30. 生徒応援団についての注意

- (1) 自校の生徒応援団の言動については、責任教師が一切の責任を負うこと。
(2) 自校チームが試合中の時の生徒応援団を、指導、監督するため、

責任教師以外の引率教員(生徒応援団の責任者となりうる教員)が、必ず付き添うこと。

- (3) 生徒応援団の服装は、高校生らしい服装で整え、異様な服装をしないこと。
なお、自校の制服を着用することはよいが、「学ラン」は一切禁止する。
「学ラン」を着用し、大会本部から注意を無視した場合は、応援することを禁止し、退場を求めることがある。
- (4) 相手チームの選手を罵倒したり、審判の判定に不服をととなえたりするような言動は厳に慎み、終始、高校生らしい品位ある応援をすること。
- (5) **プラスバンドの吹奏は自校の攻撃のときに限る。応援演奏は、プラスバンドが席に着いても、ノック中などに楽曲の演奏を開始してはいけない。ただし、楽曲のチューニングなどの音出しは構わない。声・メガホンによる応援も、試合が始まってからとする。**
- (6) 鳴り物については、プラスバンドの楽器以外のものの使用を禁止する。
特に、投手の投球を妨害したり、試合の進行を妨げるようなものは使用しないこと。和太鼓、呼子笛、拍子木、ラッパ、ペットボトル、スティックバルーンなどは禁止する。それ以外の物であっても、試合の進行に支障があると認められる場合には、大会本部の判断で禁止する場合がある。
- (7) 応援団のボンボンは反射しない素材のものを使用すること。
- (8) ノボリ、プラカード及び、選手の個人名を書いた横断幕を揚げないこと。
- (9) 試合終了後であっても、生徒応援席から紙テープを投げたり、紙吹雪をまいたりすることは禁止する。
- (10) 生徒応援席の位置する場所は、一塁側、三塁側とも内野席とし、ネット裏席には位置しないこと。なお、ダッグアウトの上は厳禁する。一般の観客の迷惑にならないよう、生徒応援団の位置する場所、スペースなどについて、大会本部から制限する場合がある。
- (11) 選手の保護者、一般応援者(ファン)に対しても、高校野球の応援の趣旨を周知徹底させるように努め、前記(3)～(9)についての協力を求めて、整然とした応援ができるようにすること。
- (12) 生徒応援団のゴミ処理については、各校において応援席のゴミを集め、持ち帰ること。
- (13) **試合終了後、選手を出迎えるために球場外で集合することは、周辺住民や公園利用者の迷惑となるので禁止する。特に、3年生の送別を目的とし、長時間生徒・保護者・指導者が集まり、通行の妨げとなる場合があるので、試合終了後は集まることなく速やかに解散帰校すること。ミーティングや送別会は、帰校後に行うようにすること。(責任教師・監督は、選手が退場する際に先に出入口に行き、出待ち状況がある場合は、速やかに解散させてから選手を誘導すること。)**

31. メガホンのベンチへの持ち込みは監督用1本のみとする。

32. 太陽が丘球場には代打専用サークルを設ける。

33. 負傷選手のベンチ入りの取り扱いについて(平成11. 12月 日本高野連発第6885号)大会前または大会中の負傷で試合出場が不可能となった選手(例えば手足の骨折など)のベンチ入りについて、「医師の診断書で試合出場が不可能となった選手でも、試合には出場しない条件でベンチ入りは認めることとするが、試合前後のあいさつをはじめ、伝令、ベースコーチなど試合にどの程度参画させるかは、当該選手の負傷の程度を勘案して大会本部が決定する」とする取り扱いに統一する。

34. 臨時代走者の取り扱い

(1) 臨時代走者には、バッテリーを除外するよう次の通り高校野球特別規則を修正する。「代走者は、試合に出場している選手に限られるが、投手と捕手を除いた選手のうち、直前に打撃の終了した者とする」

(参考)

臨時代走者の記録上の扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録と扱われる。

(2) 臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。また、臨時代走者に替えて別の代走を送ることはできる。この場合、負傷した選手に代走が起用されたことになり、負傷選手は以降出場できない。

35. ファウルボール対策

平成14年度より、球場を使用する全ての大会で、ファウルボール対策として吹奏楽部員、生徒応援団をその危険から守る為、各学校が責任をもって、吹奏楽部に合図を送る笛2個と野球部員もその位置を取り囲むように配置し笛2個、合計4個でその対策を実施することとする。笛の準備を忘れた学校は責任教師が大会本部にその旨を届け出て、笛4個を借り、試合終了後、責任教師が返すこととする。

36. 本特別規則に定めるほか、疑義の生じた事項については、大会本部において決定する。